

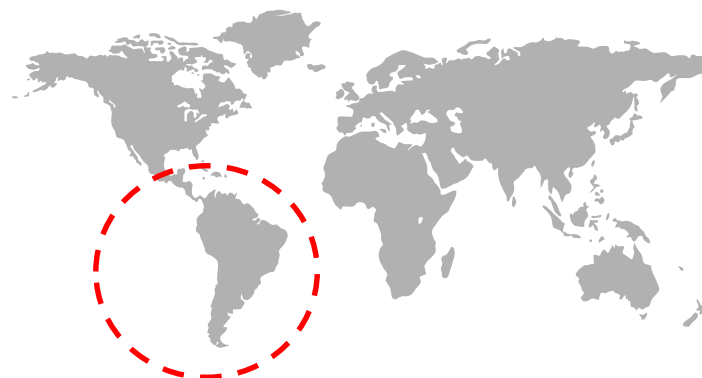
日系社会を入り口とした 中南米におけるビジネスチャンス (ブラジルを中心に)

2021年1月28日

ブラジル事務所

遠くても近い国

現在、約213万人の日系人が暮らしている



- ・面積は約2,000万km²（世界の15.4%）。33ヶ国、人口6億人から構成される。
- ・国内総生産（GDP）の規模はASEANの約2倍。
- ・アマゾンをはじめとする豊かな自然を持ち、世界の森林の22%がこの地域にある。
- ・豊富な鉱物・食料資源を有する。

日系社会との連携により、海外展開のハードルを下げる

対象国でのビジネス展開やビジネス展開に向けた取り組みが継続できている理由（上位5つ）

- 1) 現地でのビジネスパートナーが確保出来た
- 2) 自社の製品・技術・サービスを現地に適合させることができた（または、出来る見通しが立った）
- 3) 現地のニーズを把握でき、ビジネスを推進できる見通しがたった
- 4) 顧客に強く自社の製品/技術/サービスをアピールすることができた
- 5) ビジネス計画を立案でき、具体的に行動できる見通しがたった

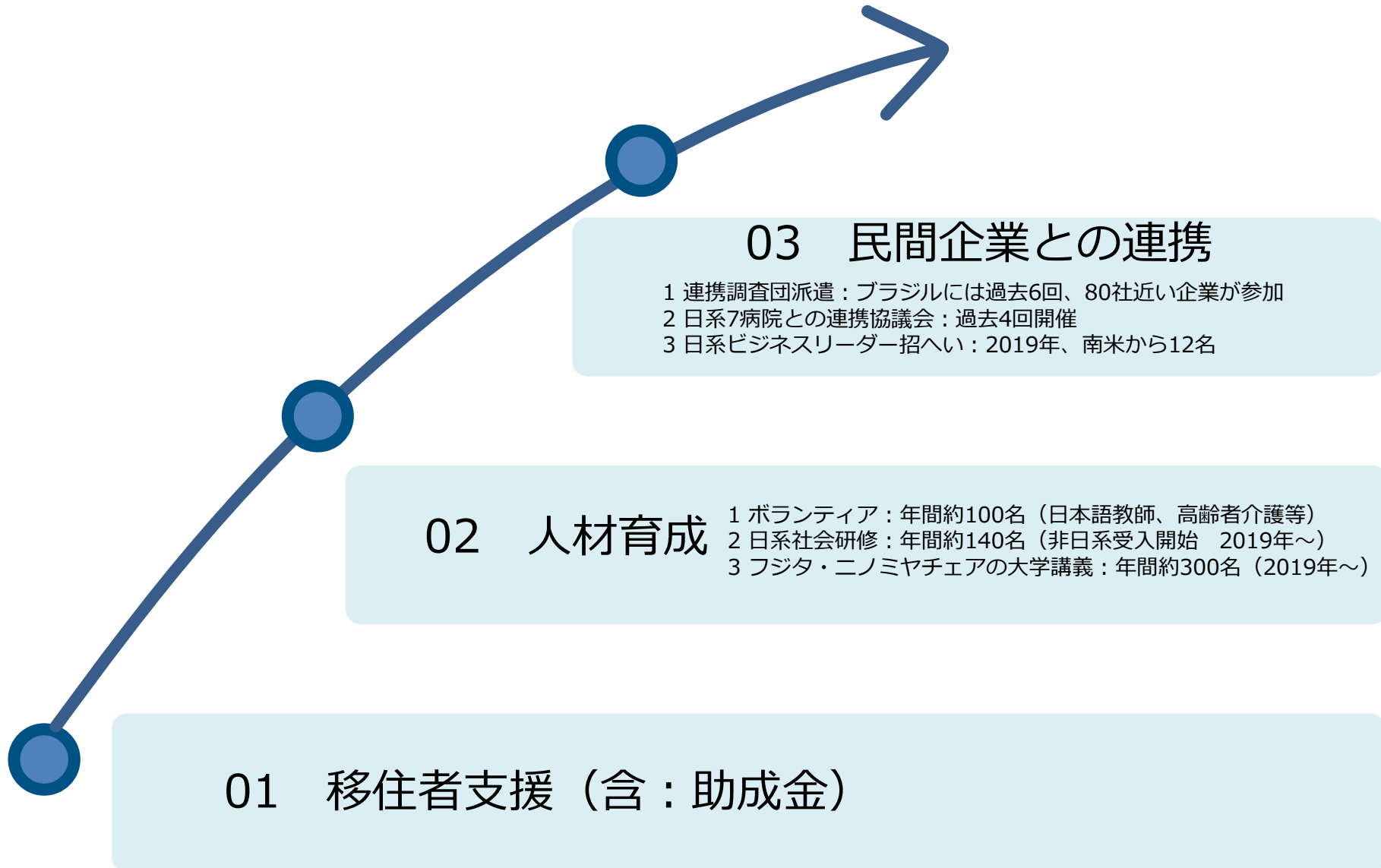
海外展開ビジネスを成功させるためのポイント

- 1) 信頼出来る現地パートナー
- 2) 市場ニーズの把握
- 3) 現地でのコミュニケーション

日系社会を入り口とした
ビジネス展開

ブラジルでの日系社会支援・連携事業

戦後から続く日系社会支援・連携は、時代とともに多様化



日系人は私達にとってのパートナー

① 中南米日系社会との連携調査団

目的：中小企業を含む本邦企業の海外展開支援をする上で、移住先国で活躍する日系人をパートナーとしながら、現地開発課題の解決に貢献し、中南米への事業展開の実現可能性を探る。

現地での活動内容：ビジネスセミナー開催、先方政府との協議、現地視察、企業訪問、日系社会とのネットワーク構築、移住地訪問等

（実績）2012年度から2019年度にかけて、ブラジルには過去6回、80社近い企業が訪伯。

（成果）調査団参加後、計13件が「中小企業・SDGsビジネス支援事業」に採択。計11件が日系社会研修に採択。



連携調査団の様子



日系医師、日系病院との連携には、特に力を入れている。

② 日系病院との連携協議会

目的：日系病院と本邦企業が意見交換出来る場を提供し、双方の理解を深め、有益な関係構築を目指す。ブラジルの医療水準の向上やブラジル国民の福祉向上にも貢献していく。

内容：日系病院間の連携に向けた提言、意見交換。本邦企業による企業・製品紹介プレゼンテーション。日系病院による本邦企業向け要望・提案に対する協議。

（実績）2018年5月、2018年11月、2019年7月、2020年9月*の計4回実施。*第4回目はオンライン

（成果）日系研修提案、営業先拡大、病院への日系社会ボランティア派遣



派遣開始から間もなく35年、草の根レベルでの支援も続いている。

③ 日系社会ボランティア（分野：日本語教育、高齢者介護、文化・スポーツ、農業、医療他）

派遣開始：1986（昭和61）年2月。15名（男性12名、女性3名）

当初の主な職種：日本語教師3名、農業系9名、工業系2名、医療1名

（実績）ブラジルに派遣されたJICA日系社会ボランティアは延べ「1,169名（うち女性682名）」で、中南米でパラグアイ、ホンジュラス、ボリビアに次いで4位。



未来の日系社会を担う人材を育成

④ 日系社会研修：

（日系社会次世代育成研修）（中・高・大学生向け）

- 日系社会の次世代を担う人材を育成
- 年間約43名（中学生20名、高校生14名、大学生9名）

（日系社会リーダー育成事業）（大学院生向け）

- 将来の日系社会を担うリーダーを育成
- 学費（大学院）、滞在費、往復渡航費を支給（奨学金）
- 年間4-5名



（日系社会研修）（**非日系の受入開始**）（成人向け）…医学、工学、農学分野等で人材育成、日本の技術、製品紹介、ネットワーク形成。文化、スポーツ分野にも拡大。

- 中南米からの日系人、日系社会に貢献する研修員を受け入れ
- 日系社会の発展に協力するとともに、これらの事業への広範な市民参加を促進
- 年間80-100名

中南米

日系社会とともに歩む

協議会の話し合いのなかから新たに生まれたプロジェクトもある。そのひとつが「栄養士プロジェクト」だ。第1回の協議会でサントラルス病院が「日本が誇る健康食」としての和食をブラジルに普及させることを目指して病院内に和食を取り入れよう」と提案したことから始まった。「サントラルス病院では以前から和食の病院内食を提供しています。質をいまより高めてブラジルだけでなく中南米地域

社会全体の
健康増進を目指して

[illegible]

第2回以降は日本病院が主導となつてこれまでに3回実施。プログラムは日本病院間で意見交換がメインの第1部と、医療関連の日本企業や病院を交えて提案などを行う第2部で構成されている。日本病院の理事長・理事のほか、サンパウロ日本総領事館、日本の医療機器メーカー、日本の大学関係者も参加し、第3回の協

深まる日系病院間の交際

日系人が設立し運営を行っていた日系病院は、ベトナムやアセアン諸国、ポリネシアなど中南米の国に点在している。なかでもラオスは、国内の日系病院が最も多く、国内の日系病院がラオスに活動の拠点を定めたとで知られる医療サービスの上を自給している。その動きの中心となる野合のい、その日系病院の提携委員会（以下「JICA」の取組組織として「ラオスの日系6病院の代表を日に出して、日本の医療技術、サービスを見もつたこと」があり、それをきかけて、これまであまり交がなかった日系病院が、つがひ、集まってきた場所」とはい、という声は、日系病院から上がったのである。JICAはラオス事務所所長の佐藤忠一さん（ラオス）の、2018年5月、JICAから、その日系6病院の声をあがる、で、第1回日系病院間の交

清まる日系病院間の交流

 COLUMN

中米で開発した教科書を 日本国内でも活用

JICAは1990年代よりスペイン語圏の中米4か国で算数教育の資力向上を目指す活動を実施。そのひとつとして初等・中等教育で目録式教材・数学科授業法に取り組み進んでいる。一方で、ホンジュラスで制作された小学校1年生から6年生の算数教科書を兵衛素子どもも文化共生センターに寄贈するなど、プロジェクトの成果物は日本国内のスペイン語を母語とする子どもたちの学習に役立ててもらい機会も増えている。エルサルバドルで制作された小学校1年生から高校2年生の教科書・指導書・生徒用練習帳についてはJICAのウェブサイト上で公開しており、誰でも自由にダウンロードが可能だ。



日本の小学校で、エルサドルの算数練習帳を使い、学習するスペイン語を母とする子どもと教員。



JICAブラジル事務所長
佐藤洋史
(さとうひろし)さん

「日系6病院が集まる日系
病院連合協会が、市場開
拓の場として多くの日本企
業が興味を持ってしてくれ
ています。医療を通じて日本とブラ
ジルの協力関係はこれから
続きます」

右：第3回の協議会で
れた「ショールーム」の様
左：日本の医療機器を
する展示会も開かれた。



日系映画館の話し合いでは、さまざまな意見交換が行われる。



病院の取り組みが
よくわかりました！

第2回の協議会では、参加日系病院内の視察も実施した。



に和食のすばらしさを広めることができれば、社会全体として健康の増進に貢献できると思っています」と、同病院理事長のレナット・イシカワさんは話す。その後、JICAの協力のもとに九州大学で日本の食文化について学ぶ

下：食糧会から生まれた「栄養士プロジェクト」で、病院食のレシピ開発を行う日系病院の栄養士たち



和食のすばらしさを
取り入れた
レシピを作ります!

日系社会と深まる交流 CASE2  ブラジル

日系病院の連携で 社会全体の医療の質を上げる

ブラジルで始まった日系病院連携協議会。この新たな話し合いの場が、医療サービスの向上を目指す日系病院同士のつながりだけでなく、医療を通じた日本と日系社会との新たな関係をも築いている。

文●評●書●

日本のファン・サポーターを広げる

(帰国研修員同窓会事業)

JICAが実施する本邦研修事業では、これまで1万人以上（年間2-300人）のブラジル人を日本に派遣。これらの本邦研修参加者が同窓会を結成し、日本で得た知識の伯国内での普及や会員間のネットワーク構築などの活動を各地で実施。各分野の専門家が集まる同窓会は日本サポーターの集まりでもあり、ぜひビジネスでの活用もご検討頂きたい。

○帰国研修員同窓会所在地と会員数

- ・ ABJICA（サンパウロ市）：約1,500名
- ・ APAEX（クリチバ市）：約450名
- ・ ASBBJ（ポルトアレグレ市）：約500名
- ・ ABRAEX（ブラジリア連邦区）：約450名
- ・ ACCTBJ（ベロオリゾンテ市）：約130名
- ・ ANBEJ（レシフェ市）：約450名
- ・ 日本語教師OB会（サンパウロ市）：約250名



Como apoio às atividades de contramedida de Covid-19 a JICA adquiriu 4 monitores de sinais vitais para apoiar o Hospital Amazônia e as atividades dos ex-boisistas, colaboradores deste hospital, que participaram do treinamento SS Kaizen no Japão.

◎ 25 岁，女，已婚，孕 6 月 23 日

Copyright © 2004 by John Wiley & Sons, Inc.

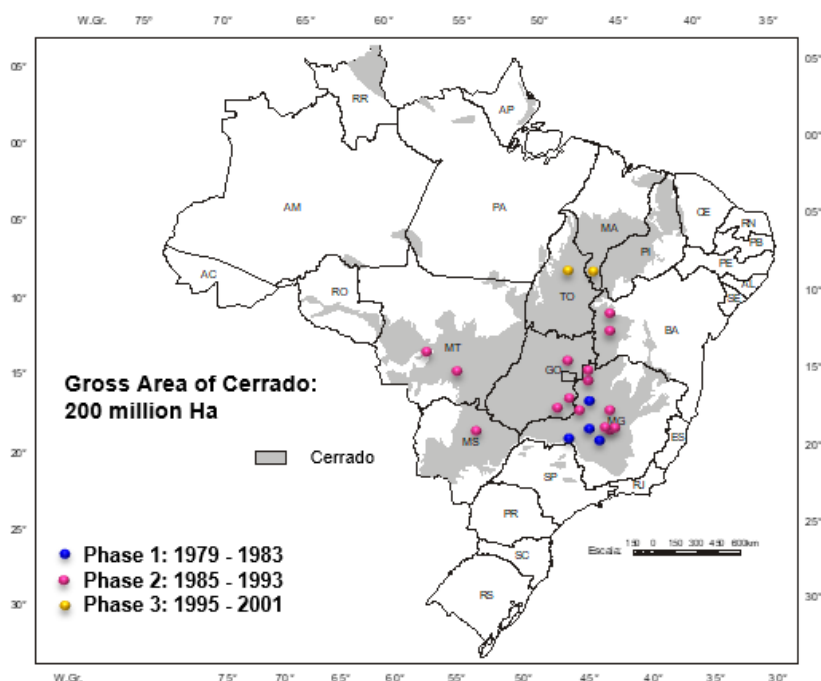
LISTA DE LINKS

[illegible]

今や農業大国のブラジルの開発史に、日本の支援や日系移民の活躍あり

① セラード地域農業開発

1979年、JICAは日本の民間企業と出資会社を共同創設し、同事業の調整役を担うための合弁会社を、ブラジルの出資会社と共に設立。農地造成事業を開始。



資金協力

日伯セラード農業開発プロジェクト
(PRODECER)
(実施期間1977年 - 2001年)

灌漑設備導入支援
(円借款承諾1985年)

ゴイアス州地方電化
(円借款承諾1991年)

技術協力

環境モニタリング調査
(実施期間1992年～2000年)

EMBRAPA野菜研究所に対する技術協力
(実施期間1972年～1996年)

EMBRAPAセラード農牧研究所*に対する技術協力
(実施期間1977年～1992年)

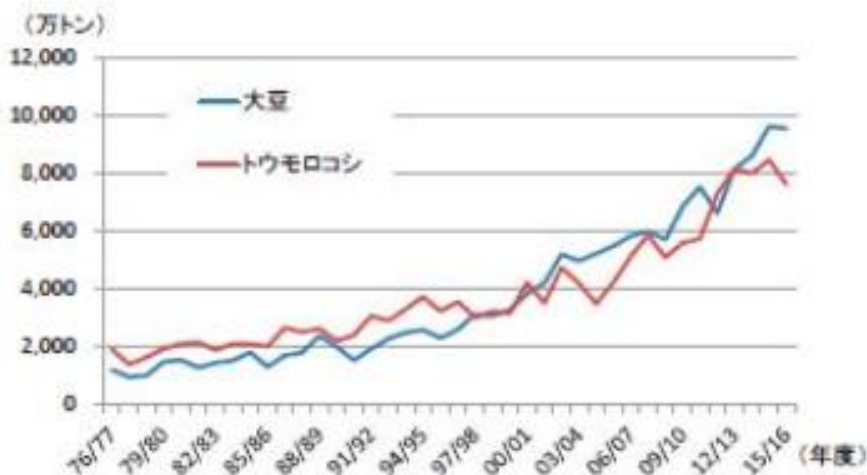
JICAブラジルを代表する協力事業

PRODECER事業

- ・セラード地域の農業開発として、農地造成、灌漑整備、入植者717戸に対する融資等を通じて34.5万ha（東京都面積の1.6倍）を開拓。
- ・作物栽培に不適とされていたセラード地域の穀物生産量が大幅に増大し、米国に並ぶ大豆輸出国へ成長。熱帯サバンナ地域における農業開発の草分け的役割を果たした。

セラードにおける4種穀物の生産量の推移
(大豆, トウモロコシ, 米, 小麦)

穀物生産量の推移

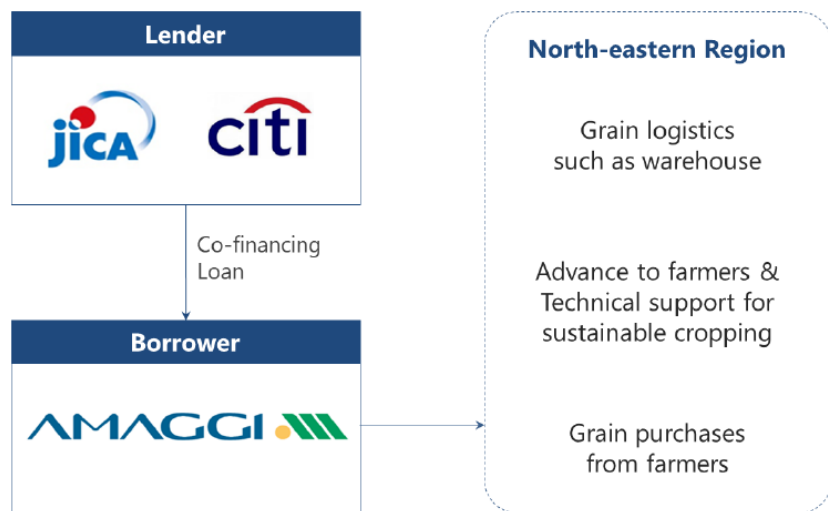


…赤土の酸性土壌が広がるセラードは本事業により多角的に開発され、広大な農業基盤が構築されたことにより、1970年代は2,000万トンほどであった大豆やトウモロコシの生産量は2015年頃には1億トン近くまで、飛躍的に増加した。…

JICAブラジルにおける海外投融資第一号は農業案件

② 農業サプライチェーン強化事業（2018年9月調印）

持続可能な農業を基本概念として掲げる大手穀物企業・アマッジ社に対し、2018年9月、50百万ドルの融資契約を調印。同社はマットグロッセ州東部を含む北東部地域において積極的に穀物サプライチェーン強化と集荷網拡大を推し進めており、今回のJICA融資を通じて、穀物輸送インフラ設備投資中小農民の営農を支える耕作資金貸付などを行う。本事業はCiti Bank社との初の協調融資事業であり、同地域への持続的な農業開発に寄与するとともに、日本・世界の食料安全保障への貢献が期待される。



様々な分野で活躍する日系人

JAPONÊS GARANTIDO（日本人は信用できる）

現地で用いられる「ジャポネス・ガランチード（Japonês garantido）：日本人は信用出来る」との表現は、日系人がこれまでブラジルで築き上げてきた信頼と功績を物語っている。

- ・ 政治、経済、農業、医師、弁護士、教育、文化等の広範な分野で活躍。
- ・ 全人口の日系比率は1%未満とされているが、約1万6,000人*が日系人医師とも言われており、全医師数の日系比率は3.5%を超える。
- ・ ブラジルの最高学府であるサンパウロ大学に占める日系人学生の割合は、10～20%と言われる。



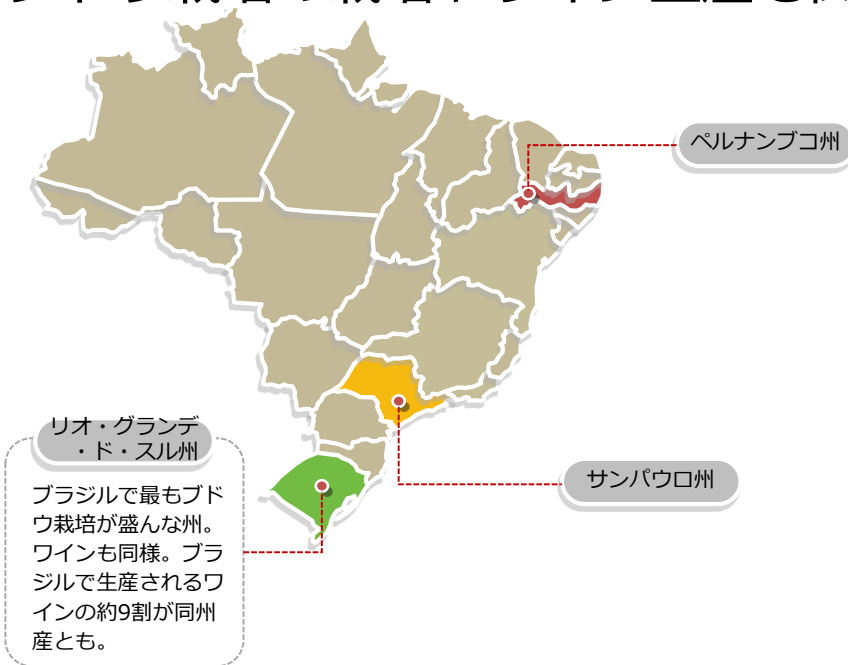
*Source: ニッケイ新聞

<https://www.nikkeishimbun.jp/2018/180810-71colonia.html>

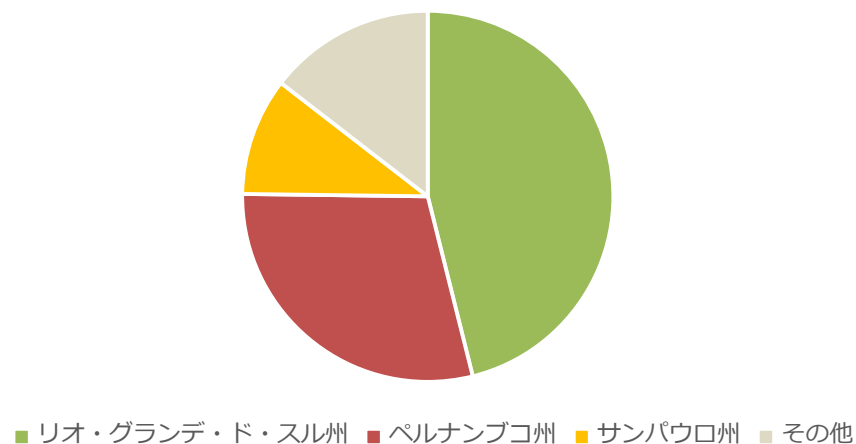
様々な分野で活躍する日系人

山梨県の名産であるブドウにおいても、現地で活躍する日系人がいる

ブラジルの国土は広大で、大豆やトウモロコシはブラジル全土で生産されているが、実は、農作物は非常に多様性に富んでいる。ブドウ栽培が盛んな地域は、主にリオ・グランデ・スル州、ペルナンブコ州、サンパウロ州の3州。例として、ペルナンブコ州では、これまでJICAも多くの協力事業を共に行ってきたEmpraba（ブラジル農牧研究公社）と共に、日系の方がブドウ栽培の栽培やワイン生産も関わっている。



生産量 (%)



Source: Empraba（ブラジル農牧研究公社）

<https://www.infoteca.cnptia.embrapa.br/infoteca/bitstream/doc/1124189/1/COMUNICADO-TECNICO-214-Publica-602-versao-2020-08-14.pdf>

他にも、果樹や野菜栽培において、多くの日系の方々が活躍。

現地の日系の方々の多くが、より一層の日本とのつながりを求めている。

(連携事例1) 中小企業・SDGsビジネス支援事業の現地調査において、現地の**県人会***がサポート。県連合会を通じて、自社製品アピールの機会を提供。また、現地パートナー候補を紹介。

(連携事例4) 現地の組織化された**日系の企業家グループ**が、日本企業と現地企業とのビジネスマッチング・商談会開催をサポート。

(連携事例2) コロナ禍において現地渡航が出来ない中、**JICA帰国研修員同窓会**が、遠隔での現地関係者との面談を支援。日本企業と現地関係者との通訳サポートも。



(連携事例5) 当地でのビジネス展開に関心のある日本企業と、現地**日本人会**及び**日系農業協同組合**との間で、日系人をパートナーとした今後のビジネス展開について意見交換を実施。

(連携事例3) 現地**日系人協会**とともに、当地でのビジネス展開に関心のある日本企業向けに、ビジネスマッチング開催を支援。

(連携事例6) ビジネス展開を検討中の日本企業に対し、**日系農業家**が自身の現地でのビジネスネットワークを活かし、現地パートナー候補を紹介。

- ・ ブラジルの県連合会は、1966年、家族会との緊密な連絡を行うブラジル側の団体として創設。現在は、毎年7月にサンパウロ市で行われる「日本祭り（フェスティバル・ド・ジャポン）」の運営も手掛ける。

ご清聴ありがとうございました。

ご連絡は以下までお気軽にどうぞ

JICAブラジル事務所

Al. Santos, 700 15º andar –
Ed. Trianon Corporate
Cerqueira Cesar CEP: 01418-
100 - São Paulo - SP - Brasil
Tel: +55 (11) 3251-2655
Fax: +55 (11) 3251-1321
E-mail: br_oso_rep@jica.go.jp

JICAブラジル事務所ブラジリア出張所

SCN Quadra 02 Bloco A Sala 402
– Ed. Corporate Financial Center
CEP: 70712-900
– Brasília - DF - Brasil
Tel: +55 (61) 3321-6465
Fax: +55 (61) 3321-7565
E-mail: brbs_oso_rep@jica.go.jp

www.jica.go.jp/brazil/portuguese/office (Brasil)
Facebook : jicabraziloffice